

成願寺(じょうがんじ) 東京都中野区本町 2-26-6

開基である鈴木九郎は紀州出身で室町時代に当地にやってきて開拓・放牧を始め、馬売りで浅草の観音さまに「どうか観音様、馬がよい値で売れますように。この馬が売れて、そのお金のなかに大観通宝(中国のお金で当時日本でも流通していた)が混ざっていましたが、それは全部、観音様に差し上げます」としたら高く売れて、そのお金は全て大観通宝だったので、みんな観音様に差し上げて手元には残りませんでした。その後、九郎はこれまで以上に働いて成功して財を成し「中野長者」と呼ばれ、成願寺付近に邸宅を構えました。鈴木九郎には小笹という一人娘がいたが18歳で病死し九郎に深い悲しみを与えた。これを機に残りの人生を仏門に生きる決意をし、小田原の大雄山最乗寺の春屋宗能に教えを請って名を正蓮に改め僧侶となり、邸宅を寺院にしたのが当寺院の始まりである。1438年のことであった。名は娘の戒名から当初は正観寺となっていたが、江戸時代に成願寺と改められる。曹洞宗で本尊は釈迦如来像。また、墓域の中ほどに蓮池藩鍋島家の墓碑が安置されています。当山との関係は、二世直之の子千熊を寛文9年(1669)11月に葬ったことに始まります。同家の墓域には、四代直恒(寛延2年[1749]10月16日没)をはじめ、八代直與の子龍吉郎(明治6年[1873]5月27日没)まで、13基の墓碑が現存しています。平成26年2月、中野区認定観光資源に認定されました(同寺パンフレットより)。



山門はどこことなく佐賀の雰囲気



山門を潜ると直ぐに6地蔵



不動明王



微笑観音



蓮池鍋島家の墓碑



鍋島地蔵で佐賀鍋島家の子女のために建立



圓通閣（百観音堂）100 観音が安置



三邪鬼が支えている大香炉



本堂上の彫刻



長者閣

至る所に大観通宝の家紋と馬がいる